

みなさんお元気ですか。

この国に来て約1年が経ちました。ご笑覧ください。



3月9日

地元の高校生が U.C.A 大学を見学に来た。

高校生のためのオープンキャンパスが開かれた。当大学を入学希望する高校生のために合気道の授業を見せて欲しいと依頼があり、約 50 名の生徒が見学に来た。

まず、私が合気道とは何かを簡単に説明した。そして、受講生の一人に今までに稽古した「前受け身」を実演させた。つぎに、このクラスでは、より実践的な技としてナイフを持った強盗に襲われたらどうするかなどの防御方法を実演した。さらに、合気道の技の「三教から短刀取り」を披露した。大体の説明が終わり、見学の最後に何か質問はないか、と聞いた。そしたら、回転投げや小手返しなどの合気道の技を私に掛けてと言ってきた高校生がいた。どうして合気道を知っているの？Youtube で見たとか。！



3月9日

今日で、合気道の授業は7回目である。全 15 回の授業で前半が終わった。受講者たちは、今までの授業に少し飽きてきたのではないかと感じてきた。それでより実践的な技を考えて、「短刀取り」の技を取り入れた。ナイフ（木製）を持った強盗が襲ってきた場合にどのように対処するかの方法を教えた。

強盗は、ナイフを隠し持ち、今何時ですか、と問いかけながら寄ってくる。被害者の横に近づき、強盗は被害者の後ろに回って、ナイフを被害者の首に近づける。もう一方の手で、被害者の肩を掴んで動かないようにする。そして、金を出せ、と脅す想定とした。合気道の「三教の技」を活用した。受講者たちは、いつもなら 70 分くらいすると少し疲れてきて飽きてくる。でもこの日は最後まで飽きずに楽しく稽古した。

Seminario Internacional de Aikido. Academia de Artes Marciales Ilshim

Calle 27 de mayo
Pali 1/2 c. este

Sábado 9 am - 5 pm

Domingo 9 am - 12pm

AIKIKAI DE
NICARAGUA
Invita

SEMINARIO DE
AIKIDO

Sensei
YESID SIERRA
6to. Dan
Aikido México Kihon Dojo

Sensei
ARMANDO DE LA ROSA
6to. Dan
Aikido El Salvador
Kokyu Dojo

Costo US\$20

18
19th
Mar.
2023

Managua,
Nicaragua

3月18日

今日は、合気道セミナーに参加した。主催は、ニカラグアにあるもう一つの団体（道場長 Bruce Lester 先生）で、メキシコからイエシド シエラ先生（6段）とエルサドルバドルからアルモンド ロサ先生（6段）が来られた。今回のセミナーに本道場が二人の先生を招待したという説明を受けていたが、実際は、昇段賞状の授与のためのセミナーでもあった。アルモンド ロサ先生は、6段、ブルース先生は、3段に昇段された。また、ホンジョラスから来た人も初段の賞状を受け取った。この賞状は、合気会本部道場から発行されたものだった。多分、イエシド先生は、アメリカの合気会連盟からこれらの賞状を受け取ったと思われる。

さて、今回のセミナーは、午前9時から12時まで、午後からも2時から5時までの日程となっていた。それ以外の詳細な進行日程は誰も知らない。ラテンの国らしく誰も時間割や誰が指導するかは、気にしていなかった。実際は、予定より30分ほど遅れて、最初にアルモンド先生から始まった。準備体操に20分ほど掛けた。ヨガほっぽい体操だった。日本の本部道場でやっているような体操とは異なっていた。技においては、授業の大半は、入り身投げだけだった。技の一つひとつの動き、捌きに詳しい説明がみられなかった。相手への崩しもなく、そのまま相手に技を掛けているようだった。技に正確さが欠けているようにも思えた。二番目の指導者は、メキシコからきたイエシド先生だった。対応が柔らかく気よさそうな人柄を感じた。この先生は、諸手取りの呼吸投げから始めた。技は、諸手取りの上段からの投げや下段に反してからの投げだった。私も先生の受けを取ったが、呼吸力は余り伝わってこなかった。先生のお手本は、一度に数本の技を演武する。例えば、諸手取り、四方投げ、呼吸投げ、一教、小手返しなど。見ている生徒たちには、たぶん理解できてないと思った。今回のセミナーは扇風機もなく、異常なほどの暑さの中での稽古だった。ただただ、暑さには参った。





3月19日

セミナー二日目。今日は朝一で、私が教えることになった。

ラテンの国らしく、何の事前連絡もなく、昨日道場長から依頼の話がきた。最初は断ったが、まあいいか、という気持ちで引き受けた。

9時開始だったが、生徒が居なくて20分くらい過ぎてから始めた。今日の稽古のテーマとして、手の内と理合い（剣と体術の関係）について、生徒たちに説明した。

昨日の稽古の様子を見て、今回の指導者も参加者も合気道のなかでの「手の内」のことも、そしてこれが体術にどのように関わっているか（剣の理合い）も知らない、と判断したからだ。剣を握るときに、人指し指、薬指、そして中指が非常に重要だ。そして、この形（龍の口とも言う）が合気道の呼吸投げやその他のあらゆる体術に適用されていることを生徒に知ってもらいたかった。



そのために、小指や薬指の根本にある尺骨。そして、橈骨との関係。そして、尺骨が胴体や仙骨まで繋がっていることを説明した。

つぎにそれを実証するために、生徒同士が二人一組となって、（投げと受け）となって、「投げ」が「受け」の橈骨を触ってねじる。また、尺骨だけを触ってねじる。「受け」がどうなるか。尺骨をねじると「受け」のバランスが崩れることを試してもらった。また、「投げ」と「受け」とが正面打ちでお互いに手刀で振り下ろしたばあい、手の内の形にしたほうが、自己の体重を力として利用でき、相手を崩すことができる、稽古をさせた。その結果、参加した受講者全員が不思議そうに、試していた。また、私の英語での説明にも関わらず、一生懸命、興味津々で見ていることが私にも伝わってきた。よかった。



3月23日

高校生の団体がまた合気道見学に来た。

当大学の体育プログラムを高校生に紹介するために、また合気道の授業を見せてほしいと依頼があった。今度の高校生は、ほとんどが男子生徒だった。

高校生が見学に来るまで、簡単な「受け身」と強盗に手を掴まれた場合のテクニックを事前に受講生と一緒に練習しておいた。「受け身」が出来ない受講生が居て、「できない」いやだ！と言い張っていた。しかし、実際に高校生が道場に入ってきたら、いままでワイワイ騒いでいた受講者たちは、緊張した様子で、デモンストレーションをした。私が見本を示した。「前受け身」も全員がきれいにやった。先ほどやりたくないと言っていた受講生も真面目にやった。そしてうまく「前受け身」がとれた。すばらしい受講生たち。これもラテン特有で、なぜか本番に強い、と感じた。



3月28日

父親を訴えた子供。

今日で、12回目の合気道教室だ。

最近、友達の誘いで入った受講生がいた。その受講生は、初回なのに前受け身が上手にできた。初回から稽古をしている受講生よりうまかった。本人も喜んでいて、次回も続けると言っていた。それで、その受講生にも参加を認めて出席カードをあげた。

だが、今日はその受講生が来なかった。その理由は、お父さんを訴訟して、今日は裁判所に行かなければならないので欠席すると、伝言を受け取った別の受講生が私に伝えてくれた。それを聞いて私はびっくりした。自分の父親を裁判で訴えている。実は、その父親とは現在離婚していて教育費などを娘に払っていないとのこと。そこで、その受講生が元父親を訴えたとのことだった。伝言を受けとった別の受講生は、ニカラグアではよくある話だよと、淡々といった。ええ！日本は大丈夫だろうか。